

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月31日現在

機関番号：32644

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20390548

研究課題名（和文） 遺伝相談の方法論と医療者の学習支援に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Basic study for strategy of genetic counseling and learning-support for health professionals

研究代表者

溝口 満子 (MIZOGUCHI MICHIKO)

東海大学・健康科学部 教授

研究者番号：40149430

研究成果の概要（和文）：看護職者の相談能力向上のための、自主学習用ツールとしてドラマ及び学習方法をセットにした DVD を作成した。看護職者が対応することの多い出生前診断の一つである羊水検査を受けた妊婦の体験をもとに夫婦と彼らを取り巻く人々の心情を細かく描いたストーリーを2つ作成し、各々をドラマ化した。一方看護師を対象としたワークショップを開催し、「大人の学び」および専門職としての経験知を活かした学習方法の有効性を検証した。

研究成果の概要（英文）：

We created a DVD with dramatized recreations and learning strategies as a tool for self-study in order to improve nurses' ability to advise patients. Two storylines closely depicted a husband and wife and their emotions based on the pregnant wife's experience undergoing an amniocentesis, which is a form of prenatal diagnosis that nurses often deal with. These stories were dramatically recreated. A workshop for nurses was also conducted, and the effectiveness of learning strategies was also determined through use of "adult learning" and nurses' knowledge and experience as professionals.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2009年度	2,400,000	720,000	3,120,000
2010年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2011年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
総計	11,600,000	3,480,000	15,080,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：遺伝相談 相談方法論 学習支援

1. 研究開始当初の背景

(1) ゲノム解析の進歩とともに、遺伝に関する情報を一般の人々が入手できる時代になり、疑問や不安を持つ人が増えている。

(2) 看護職者が臨床で遺伝問題を抱える人に出会う機会が多いが、遺伝に関する教育を受ける機会が少なく、相談を敬遠しがちである。

(3) 看護職者向けの遺伝相談の研修が少なく、また研修機会に恵まれない地域の看護職者が自主的に学べる学習方略及び学習ツールの開発が必要であった。

2. 研究の目的

看護職者向けに遺伝相談実践能力を向上させるための学習方略及び学習支援ツール

の開発を試み、その効果を検証し研修プログラムを構築する。

3. 研究の方法

看護職者が遭遇することの多い出生前診断(羊水検査)の相談場面を例に以下のことを行った。

(1) 事例の作成と教材作成

英国の Telling story (<http://www.tellingstories.nhs.uk/>)を参考に、実際に羊水検査を受けた人達及び相談を行う看護師にインタビューを行い、それぞれの体験をもとにした事例の作成と学習方法を取り入れた DVD 教材の作成

(2) 成人学習及び専門職としての体験を活用した方法としてリフレクションを取り入れたグループ学習会の開催

(3) 学習会過程記録データの分析・評価から学習方略の検討

4. 研究成果

(1) 事例と DVD 教材の作成

出生前診断を受けた妊婦(カップルの場合もあり)計5名(組)に対して、遺伝相談に至るまでの経過や相談時の状況等に関するインタビューを、及びこれらの相談に関わった看護師4名、医師2名に対して、具体的な相談内容とそれへの応答、留意等に関するインタビューを行った。さらに、遺伝相談に携わっている看護師2名と助産師2名に対して、相談における看護実践の留意点についてグループ・インタビューを実施した。相談の場で当事者・医療者間に生じたことを分析し、これをもとに学習支援教材としての事例を作成した。事例は、インタビューデータから、出生前診断を受けるそれぞれの過程において、当事者がどのような心情でいるのかに焦点を当てて記述した。その後、DVD教材作成時には、1回目のワークショップで用いた教育技法「リフレクション」を取り入れ、クライアントの心情を看護職者が深く理解できるように、リフレクションのポイントや討議の促しをチャプターに分けて挿入し、学習課題となるように作成した。

(2) 事例を用いた2回のワークショップの開催

1回目のワークショップでは、妊婦や看護師へのインタビューをもとに作成した紙上事例(高齢のため染色体異常症の子どもの出生が懸念されたため羊水検査を希望して実施、結果が陰性であったカップルの例)を用いて、表1に示した目的・目標を掲げ、看護職者を対象にして一日開催した。参加者は出生前診断を受ける人への対応経験のある助産師11名であった。

表1 学習の目的と目標

【目的】	クライアントに対する理解の仕方を学び直す。
【目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントの置かれている状況や気持ちを当事者の経験を通して理解する。 2. クライアントとのかかわる中で、看護職者はどのような気持ちや葛藤を抱えるかを理解する。 3. 相談場面で必要とされる知識を確認する。 4. クライアントへの対応のあり方を考える。

表2 ワークショッププログラム

時間	内容
9:00 ~ 10:00	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ワークショップの流れについて 3. 自己紹介
10:00 ~ 12:00	事例を読み解く *クライアントの経験(状況、出来事、意味づけ、気持ち)に焦点を当てて
	昼食・休憩
13:00 ~ 14:10	事例にかかわる知識(身体状況と意思決定の関連)の確認
	休憩
14:20 ~ 16:00	ロールプレイと討議 <ol style="list-style-type: none"> 1. 役決め及びロールプレイの内容 2. ロールプレイ 実演と見学 3. グループで「演じて」「見て」の感想を共有・議論
	休憩
16:10 ~ 17:00	まとめ <ol style="list-style-type: none"> 1. ふり返りシートの記入 2. グループで意見交換 (FGI)

表2に示したプログラムに従って行った。事例の読み解きの過程では、参加者の経験が討議の場に次々と持ちだされ、それに触発されて多角的に当事者たちの心情理解が深められた。事例の理解に必要な知識(表3)を討論の間に挟んで提供することで、知識が本当に必要であることが実感でき効果的であった。対応に関して、ロールプレイではその通りに演ずることができないことを身をもって体験でき、うまく演じることが重要ではなく、当事者の心情をどれだけ深く、当事者体験として汲み

取れるかが重要であることが確認できた。学習者自身の持つ経験はリフレクション効果があり、学習の質を高める重要な要素であった。

表3 事例理解に必要な基礎知識例

1. DNA・遺伝子・染色体
2. 遺伝のメカニズム
3. 先天異常の原因
4. 染色体異常のおこりかた
5. 母体年齢と胎児異常の頻度(ダウン症)
6. 羊水染色体検査の概要
7. 出生前診断に関わる倫理ガイドライン
8. 参考文献・web情報サイト

2回目のワークショップは、初回に引き続くフォローアップ学習会の意味合いを持って半年後に1日開催した。参加者は前回参加者のうち参加可能であった6名であった。プログラムは、前回学習を踏まえ半年の間に各自が経験したことをメンバー間で発表し、経験を共有することから始め、紙上事例をドラマ化して視聴することで学習効果がどのように変化するか検証するため、前回の事例をドラマ化したDVD教材を視聴し活用についての有効性を討議した。その結果、デメリットとしてクライアント理解に先入観を持ちやすいことがあげられたが、参加者の持つ経験がこれをカバーできること、それにも増して学習時間の短縮化やチャプター毎に学習者のニーズに応じてポイントを定めた学習ができるメリットがあることがわかった。

(3) 効果的な学習方略の提案

「大人の学び方」を基本に2回にわたるワークショップにおける学習方略を検討したところ、次の3点が効果的であった。それは①リフレクション、②参加者の経験の活用、③クライアント理解のプロセスに応じた知識提供である。特に経験を持つ専門職者の学習プロセスには、各々のもつ体験を活用して参加者間で互いの体験を共有・討議によりさらに体験の意味を深めたり広げたりすることができる優れた方法になりうるということが確認された。またこのワークショップでは必要な知識を絞り込んで提供したことにより、クライアントのおかれた状況把握に直接役立ったと実感が持っていた。そのため参加者は一様にこのワークショップに参加したことに満足感を示していた。1回目のワークショップ参加後、実践の場に戻って、ワークショップでの体験をもとに積極的なクライアントへの関わりを試みており、このような学習を繰り返し行うことが、実践知を確実にしてゆくものであるということが示唆された。

さらに教材として事例の活用は、臨場感を与え優れているが、学習時間の確保が厳しい臨床看護師にはドラマ化したDVDに学び方のポイントをセットにした視聴覚教材がより効果的であるといえる。

(4) 研修プログラムについて

本研究期間に実施したワークショップ形式でフォローアップも含め各々1日のプログラムであった。参加者がテーマに関して経験を持つ専門職者であったため、一日でも十分な学習ができ満足度も高かった。しかし、短時間でその場に居ながらにして学べるプログラムがより現実的であろう。その意味で今回作成したDVD教材は、学習ガイドに沿ってあるいは学習者間でそれぞれの持つ経験を重ね合わせて理解を深めることができる優れた学習プログラムとなり得る。

(5) 今後の方向性

本研究結果を発展させるために、一つは異なる状況の事例をドラマ化し教材のバリエーションを増やすこと、もう一つは自己学習では十分に能力獲得までつなげられない場合の支援としてSkypeなどネットコミュニケーションを活用した学習支援を行う必要があり、今後の課題としたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計8件)

- ① M. Mizoguchi, M. Morita, Y. Nishimura, K. Shibuya, H. Maeda, H. Moriya Investigation of learning models for improving nurses' abilities to care for couples undergoing amniocentesis: From the workshop execution process 24th International Society of Nurses in Genetics Annual Conference 2011. Oct. 8-10 ヒルトンホテル (Montreal, Canada)
- ② 渋江かさね, 溝口満子, 守田美奈子, 西村ユミ, 前田泰樹 出生前診断の相談対応に関する学習支援プログラムの開発—専門職教育の視点から— 第10回日本遺伝看護学会学術大会 2011年9月23日~24日 日本赤十字看護大学 (東京)
- ③ 西村ユミ, 前田泰樹, 溝口満子, 守田美奈子, 渋江かさね 出生前診断の遺伝相談における看護の特徴 第10回日本遺伝看護学会学術大会 2011年9月23日~24日 日本赤十字看護大学 (東京)
- ④ M. Mizoguchi, A. Kondo, S. Izumi, H. Maeda, M. Morita, Y. Nishimura, K. Shibue, H. Yokoyama, K. Takahashi, Y. Onuki

Quality assessment of genetic counseling with focus on prenatal diagnosis -Bilateral survey of counseling staff and clients- European Human Genetics Conference 2010 2010. July. 12 コングレスセンター (Gothenburg Sweden)

- ⑤ 森屋宏美, 溝口満子, 横山寛子, 近藤朱音, 高橋千果, 藤田みどり, 辻恵子, 大貫優子, 和泉俊一郎 遺伝子診療科における出生前診断の遺伝相談 (その2) 羊水検査に伴う遺伝相談を振り返って 第34回日本遺伝カウンセリング学会 2010年5月28日~30日 東京女子医科大学(東京)
- ⑥ 溝口満子, 森屋宏美, 横山寛子, 近藤朱音, 高橋千果, 藤田みどり, 辻恵子, 大貫優子, 和泉俊一郎 遺伝子診療科における出生前診断の遺伝相談 (その1) 第34回日本遺伝カウンセリング学会 2010年5月28日~30日 東京女子医科大学(東京)
- ⑦ 守田美奈子, 溝口満子, 西村ユミ, 前田泰樹, 渋江かさね 遺伝問題に関わる自己決定能力を促進するための学習支援プログラムの構築と成果 (その2) 学習プロセスの分析と評価 第7回日本遺伝看護学会学術大会 2008年9月20日~21日 聖路加看護大学(東京)
- ⑧ 溝口満子, 守田美奈子, 西村ユミ, 前田泰樹, 渋江かさね 遺伝問題に関わる自己決定能力を促進するための学習支援プログラムの構築と成果 (その1) 基礎知識習得部分の評価 第7回日本遺伝看護学会学術大会 2008年9月20日~21日 聖路加看護大学(東京)

[その他]

DVD教材

- ① 出生前診断の相談対応~妊婦の気持ちに寄り添うということ~ Vol.1 2010年
- ② 出生前診断の相談対応~妊婦の気持ちに寄り添うということ~ Vol.2 2011年

6. 研究組織

(1) 研究代表者

溝口 満子 (MIZOGUCHI MICHIKO)
東海大学・健康科学部・教授
研究者番号: 40149430

(2) 連携研究者

守田 美奈子 (MORITA MINAKO)
日本赤十字看護大学・教授
研究者番号: 50288065

西村 ユミ (NISHIMURA YUMI)
大阪大学・コミュニケーションデザイン

ン・センター・准教授
研究者番号: 00257271

前田 泰樹 (MAEDA HIROKI)
東海大学・総合教育センター・准教授
研究者番号: 00338740

渋江 かさね (SHIBUE KASANE)
静岡大学・教育学部・准教授
研究者番号: 10377707

和泉 俊一郎 (IZUMI SHUNICHIRO)
東海大学・医学部・教授
研究者番号: 90138066

(4) 研究協力者

近藤 朱音 (KONDO AKANE)
東海大学・医学部・講師
研究者番号: 00384884

大貫 優子 (ONUKE YUKO)
東海大学・医学部・講師
研究者番号: 20384927

高橋 千果 (TAKAHASHI KAZUMI)
東海大学・医学部・助教
研究者番号: 00459455

横山 寛子 (YOKOYAMA HIROKO)
東海大学・健康科学部・教授
研究者番号: 30143150

森屋 宏美 (MORIYA HIROMI)
東海大学・医学部・研究員
研究者番号: なし